

第5回 緑の市民委員会

会議録

1. 日時 平成19年11月15日(木) 10:00~12:00

2. 場所 市役所401, 402会議室

3. 出席者

(委員) 久委員長、下村副委員、日高副委員長

海老澤委員、佐藤委員、琢磨委員、稲森委員、大鋸委員、川井委員、藤原委員

磯貝委員、稲葉委員、寒川委員、山田委員、川名委員、林原委員

(事務局) 坂本都市整備部長、高橋公園緑地課長、上田公園緑地課長補佐

川邊花のまちづくりセンター所長、西川花のまちづくりセンター施設係長

杉浦公園緑地課庶務係長、北田公園緑地課工務係長

4. 議事内容

(1) 開会

(2) 案件

① (仮称) 花と緑のわがまちづくり助成制度について

(仮称) 花と緑の景観まちづくりコンテストについて (事務局 資料1、2 説明)

【寒川委員】 助成額が50,000円に100,000円なるのですか。

【事務局】 今日まで50,000円相当を年2回交付していたので1年100,000円で年額助成額は変わりません。

【稲森委員】 事業所、自治会、グループなど参加者が多くなった場合、予算額は今までどおりか。

【事務局】 予算面では今までと大きく変わりません。

【久委員長】 このような緑化は本来自分のお金でしていただくことが基本のものであるから、助成金を出す意味をよく考えて頂きたい。

【稲森委員】 委員長もおっしゃられたとおり、この助成金は地域での緑化活動を広げ、行う意味での言わば「種銭」であると思われる。

参加者が増加され予算も同じとなると問題が生じてくるであろうことから、助成額を年間例えば7~8万円とし、出来るだけ多くの団体に交付できるようにすればいい。参加者を増やすことを考えればよい。

【下村副委員長】 他市では、申請時に計画図面を添付してもらうとともに、自己資金を必ず準備し、総予算の内訳を作成してもらい、足りない分を助成することとしている例もある。また、助成金で1年草の購入は不可とし、多年草を進めることにより同じ場所に毎年助成することを減らし、活動や植栽場所を増やすよう努力されている。

【川名委員】 コンテストのレベルを上げていくことにより、技術的レベルをあげてもらえるよう考えればいいのではないか。

【稲葉委員】 今まで使い捨ての助成だったとも思う。

今まで一年草主流で、使い捨て状況であったが、多年草を使い育てるようにすべき。使い捨てから、育て方への移行を考えればいいのでは。

【寒川委員】 長期継続と評価目的からコンテストで実施後3年の評価などを実施すればいいのでは。

【藤原委員】 種から育てればさほど経費もかからず、

種を植えていっぱいになれば、多くの種がとれて、その種を欲しい人に譲れるようにすればいい。

種バンクみたいな。

【久委員長】 情報交換の場をつくってはということですね。

- 【事務局】 種や株を必要とされるしくみですね。
市内の市所有の未利用地を利用して、各家庭であまった苗や樹木や種をもってきてもらい、交換できるような仕組みを市民の方々の協力をえながら実施していくことなども考えていきたいと思う。
- 【佐藤委員】 種などをもっていくよりもデータを集めて情報を交換し、各自で譲り合いをすればいい。種、苗の情報バンクのような
- 【琢磨委員】 花苗制度は申請者すべてが助成対象となるのかどうか。助成はお金なのか苗なのか、
- 【事務局】 市で苗を買って交付しています。
- 【琢磨委員】 ちなみに、市が買っている苗の単価はいくらですか。
- 【事務局】 種類により異なるが、一般的な一年草の苗では100円程度となっています。
- 【琢磨委員】 高いのではないか。小売単価でもせいぜい70円位が普通なので、市が大量に買うのならもっと安くなるはず。
- 【事務局】 そうでもないと思う。入札で購入するため入札参加業者限定されるので一概に安くなるとは限りませんが。
- 【林原委員】 花苗制度、コンテストは定着しているので、新しい方が参加していただけるよう新人賞をもうけるなどの工夫や参加されない方のニーズ把握が必要ではないかと思う。花の種類、市の菊を前面にだしたり、広報活動をもっとしていけばいい。
- 【久委員長】 広報活動はいろいろあるが、一番効果的なのは口コミである
- 【川名委員】 イギリスでは、春先に各自で一斉に花を出す。逆に出さないと苦情がでる。そういう風土が必要
- 【稲葉委員】 助成をうけたものは、必ずコンテストへの参加が必要
今後、花と緑のまちづくりコンテストがなくなれば、オータムフェアの際に、彩りとかがなくなる。
経費がかからないハンギングやプランターのコンテストとかをしてはどうか。
別に助成品もなくし、各家庭のものをもちよってのコンテストでもいいのでは。
- 【下村副委員長】 コンテストは、品評会よりも、まちなみ重視型が良いと思う。50cmの距離から植物のできばえを見る品評会も大切ですが、まちなみの観点から言えば5m、10m離れたところから見て、周辺のまちなみや全体の景観に対する効果を審査する必要があると思う。審査においては、まちなみへの貢献度と活動そのものを審査する基準を設けるべきと思う。
- 【事務局】 今回の案のコンテストは、まちなみ景観と市民まちづくりの両方に視野に考えています。
- 【川名委員】 緑化への関心度が高まり場所として学校など核となる場所での参加が重要だと思う
- 【久委員長】 今までのコンテストは花の品評会でなかったか。
花の美しさも大切であるが、花のまちづくりという視点が必要。
花がまちなみにどのように寄与しているのか、花を通じた活動のつながりがいかに生まれているのか、などの評価もあればと思う。
助成制度とコンテストをジョイントしてどう評価するか、も考えないと。
他薦も必要かと思う。
次回本日の意見を踏まえてまとめ下さい。

- ② 緑の保全に関する提案について
花好き・自然好き市民交流サロン
樹林・棚田など自然系の緑の保全分科会からの中間報告
(資料3、4について説明)

【事務局】 次回 2月上旬を予定 開催時間は9時30分からとします。